

2018 アースビジョン多摩 映画会 自然との共生

# EARTH VISION 多摩

2018.2.24(土)13:00~19:00  
パルテノン多摩 小ホール(定員304名) 全席自由

全日通し券  
前売り  
1000円!

全日1枚の  
チケットで  
出入り自由

2005年から自然との共生をテーマにした映画を上映!  
福島、辺野古の海で今起きていること

## 残されし大地

LA TERRE ABANDONNÉE

監督: ジル・ローラン / 2016年 / 76分

ジル・ローラン監督が見つめた、  
FUKUSHIMAの“人と土地のつながり”——  
初監督にして遺作となった、生命の映像詩。



©CVB / WIP / TAKEFIVE - 2016 - Tous droits réservés

## 原発の町を追われて

双葉町・ある牛飼いの記録

監督: 堀切さとみ / 2017年 / 30分

~あれから6年 福島県・双葉町の人々~



『原発の町を追われて3・双葉町・ある牛飼いの記録』上映後、  
堀切さとみ監督と牛飼いだっただ鶴沼久江さんトーク

## ZAN

ジュゴンが姿を見せるとき

監督: リック・グレハン / 2017年 / 73分

美しい海の自然と人々の思いを伝える。

(c) imageMILL

見られなくなってしまった生き物たち



監督: 佐藤栄記 / 2016年 / 104分

12:30	開場
13:00	『Phantom オブ Paradise』
15:00	『ZAN ~ジュゴンが姿を見せるとき~』
16:30	『原発の町を追われて3・双葉町・ある牛飼いの記録』
17:00	堀切さとみ監督+鶴沼久江さんトーク
17:40	『残されし大地』
19:00	閉会

当日券は定員に達した場合、締め切らせていただきます。  
内容は予告なく変更する場合があります。

前売チケット取扱(1/6 チケット販売開始)

●チケットパルテノン: 042-376-8181  
ベルブ永山「はらっぱ」  
諏訪商店街「あしたや」  
鶴牧商店街「カフェドゥードゥー」

全日通し券 幼児は無料

前売券 一般1,000円(アテナ会員 900円)  
当日券 一般1,500円(アテナ会員1,400円)  
小・中学生 100円(前売・当日共通)

チケット予約はこちら!

詳しい内容はWEBで!  
[www.taenoha.com/ev](http://www.taenoha.com/ev)

主催: EARTH VISION多摩実行委員会

お問い合わせは Tel: 050-5891-1977 Mail: ev18@taenoha.com



EV多摩



@EarthVision.tama



@evtama

上映 13:00

『Phantom オブ Paradise』 監督:佐藤栄記/104分

さとう えいき



眠っている時に見る夢の中で、同じ景色が出て来る事はありませんか？ 実際には行った事もない、どこにあるのかもわからない景色。東京の都心部に在りながら、人がいない草原。そこでは、都心ではすっかり見られなくなってしまった生き物たちがひっそりと暮らしていました。チョウゲンボウ、モズ、トノサマバッタ、ギンヤンマ、アキアカネ、ハイイロゲンゴロウ・・・それは今、東京のみならず、日本中で姿を消しつつある動物達でした。

都会で生きる動物達の悲惨な現状を通し、今、日本全国で人間以外の生き物たちがどのようにもがき、苦しみ、ギリギリの命を維持しているかを訴えかけた渾身のドキュメント映画。

上映 15:00

『ZAN ~ジュゴンが姿を見せるとき~』 監督:リック・グレハン/73分



(c) imageMILL

沖縄に生息する絶滅危惧種のジュゴンを見ようと訪れた先は辺野古。そこで目の当たりにしたのは、圧倒的な自然の美しさと、それを脅かす米軍基地建設だった。ジュゴンを探す旅に出た木佐美有が見た辺野古・大浦湾の自然の豊かさと米軍基地建設に向けた様々な立場の人びとの声。ジュゴンとはどのような生き物なのか。辺野古・大浦湾にはどのような生物が暮らしているのか。基地建設について、自然保護団体、研究者、抗議活動に参加する市民、地元地区の住民は何を思っているのか。そして、私たちは何を守らなくてはいけないのか。沖縄の豊かな自然の中での様々な発見、体験を通してジュゴンが暮らすこの海と共に生きていくことの大切さを考えるドキュメンタリー。

上映 16:30

『原発の町を追われて3・双葉町・ある牛飼いの記録』 監督:堀切さとみ/30分

ほりきり



福島第一原発、3.11直後、全世帯が避難勧告を受けた双葉町。町は役場機能を埼玉県加須市に移し、数百人が廃校になった高校を拠点に避難生活を送った。ふるさとを追われて6年。原発と共に暮らしてきた双葉町の人たちは、今なにを思うのか。

福島第一原発がある町から全国に避難した双葉町民。6年たった今も、誰一人ふるさとに帰ることはできない。避難先で自立して生きようとしても、差別は容赦なく降り注ぐ。それでも新たな一歩を踏み出す、ひとりの牛飼い、鶴沼久江さんの姿を追った。

久江さんは福島第一原発のすぐ近くで、50頭の牛を飼っていたが、牛たちをつれて避難することはできなかった。殺処分に対処し、警戒区域の中で牛を飼いつける「希望の牧場」など、素晴らしい牛飼いいもいるが、ほとんどの牛飼いたちは涙をのんで牛たちを手放さざるをえなかった。久江さんもその一人だった。

上映後、お二人のトーク

堀切 さとみ 監督

給食調理員として働かたわら、2008年に市民メディア講座「MediR (メディアール)」でビデオ撮影・編集を学ぶ。

鶴沼 久江(うめま ひさえ) さん

福島第一原発から2キロのところで牛を飼っていた。事故後は埼玉県久喜市に避難し、家と畑を借り、農業を営む。

上映 17:40

『残されし大地』 監督:ジル・ローラン/76分



2011年3月11日福島原子力発電所の事故のあと、福島第一原発から約12キロに位置する富岡町は帰還困難区域として指定された。そこにひとり留まり、猫、犬、牛、かつて第一原発で飼育されていたダチョウ等の動物保護活動続ける松村直登の存在からこの映画は始まった。

3組の家族に寄り添う事で、日常としての福島、そして故郷を愛する思いを紡ぎ出す。“反原発”を声高に語るわけではなく、土地本来の持つ変わらぬ自然の美しさを切り取り、感じ取ってもらうことに、メッセージが込められている。



バルテノン多摩 アクセス

京王線・小田急線・多摩モノレール 多摩センター駅下車 徒歩5分  
京王線中央改札口、小田急線改札西口より左へ バルテノン大通り(遊歩道) つきあたり

主催: EARTH VISION多摩実行委員会/共催: たえのは  
提携: 公益財団法人 多摩市文化振興財団 (バルテノン多摩) /後援: 多摩市教育委員会  
[たまサンサン助成金] を受けて開催しています。

盛り上げてください♪  
ボランティア・スタッフ  
募集中

お問い合わせは下記まで  
TEL 050-5891-1977